



**キエー口の世界へ  
ようこそ！**

**キエー口の  
上手な使い方**

**～ごみ減量 できることから はじめよう～**

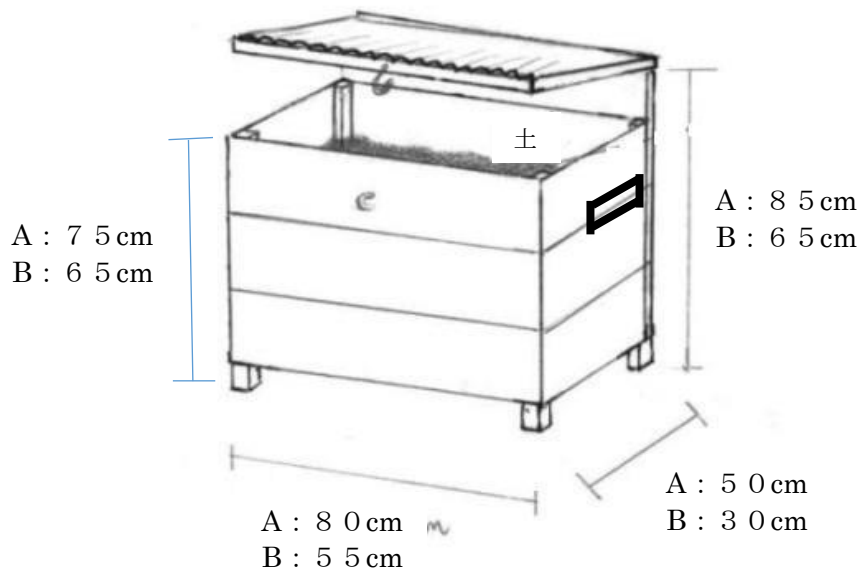
## ◇お使いになる前に…、「キエーロ」とは、

- 木製の箱（枠）の中に黒土（畑の土でも可）を入れただけのもので、
- 1 ランニングコストはゼロ！ 電気代、特別な機材・薬剤は不要です。
  - 2 土の中の微生物（バクテリア）が、太陽熱、水、空気の利用して生ごみを分解します。
  - 3 土に埋めるため、臭いしません！ 虫もわきにくい！
  - 4 分解後の土は堆肥としても使えます。

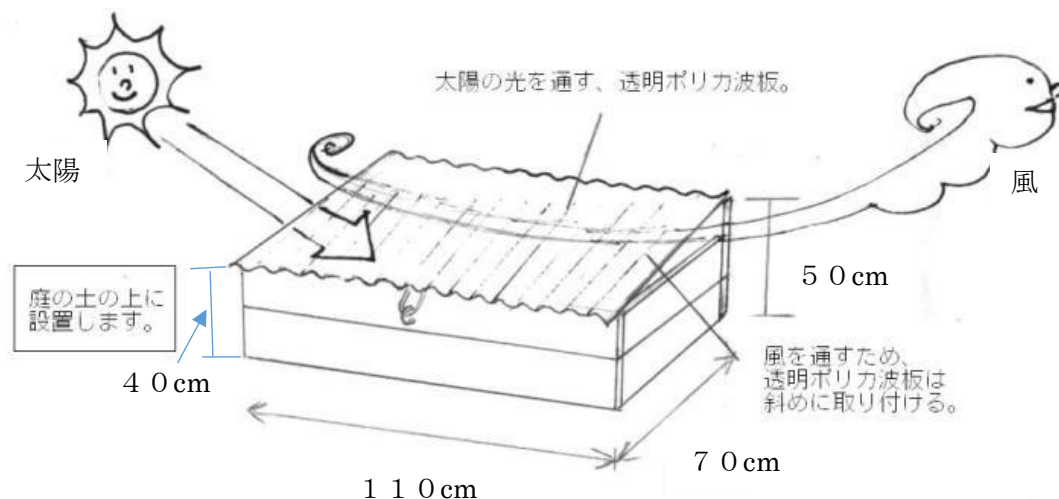
※ キエーロには、次のA・B・Cの3タイプがあります。

A：足付き大 **底有りタイプ**（高さ85cm×幅80cm×奥行50cm）  
標準型で3～5人世帯向きです。

B：足付き小 **底有りタイプ**（高さ65cm×幅55cm×奥行30cm）  
少人数（2人以下）世帯向きです。



C：直置き **底無しタイプ**（高さ50cm×幅110cm×奥行70cm）  
大量にごみが出る世帯向きです。地面スペースが必要です。



## ◇設置方法

土の表面が乾いていることで臭いや虫の発生が抑えられます。

設置するには、日当たりがよく風通しのよい場所を選びましょう。日が当たれば当たるほど分解能力が高くなります。

## ◇スタート前の準備

1 まず、土を用意します。土は市販又は畑の黒土がおすすめです。粘土質や砂の多い土は適しません。土の量は約100リットル（14リットル入りで7～8袋）です。



2 次に、シャベルを用意します。シャベルは片手で扱う移植ごてタイプのものよりも、両手で使えて作業しやすい柄の長い中型スコップがおすすめです。



3 3つ目は、生ごみをためるフタ付き容器を用意します。フタ付きのステンレス缶やポリバケツ等、ご家庭で使いやすいもので結構です。



4 最後に、キエー口のフタの安定と安全性を保つため、長さ50～70cm程度のつかえ棒があると安心です。特に、強風時にはフタが風で倒れて危険ですので、ぜひ備えておいてください。

5 準備するものは、これ（黒土、シャベル、容器、棒）でOKです。

## ◇使い方 ～さあ、始めましょう！～

キエー口を上手に使うための大切な作業です。コツをつかんで、臭いや虫の発生を回避しましょう。

### 1 生ごみをためます。

生ごみは毎日投入せず、フタ付きの容器に生ごみを数日間ためてください。廃食油や米ぬかも投入できます。

特に、夏場は臭いや虫が発生しますので、フタ付き容器にためてください。



### 2 キエー口内の土に深さ 20～30cm 程度の穴を掘り、生ごみを投入します。

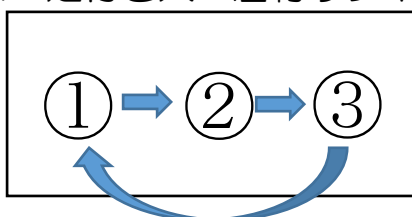
中型スコップで掘ると便利です。乾いた土はよけておきます。

生ごみは毎日投入せず、2～3日に1回を目安に投入します。1回の投入量は500gから1kg程度にしてください。投入量や回数が多いと分解が追いつかなくなります。

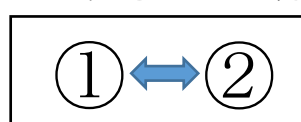


穴の数はタイプにより異なりますが、3か所以上作ることをお勧めします。順番に埋める場所を変えて、これを繰り返します。下記は埋める順序の例です。

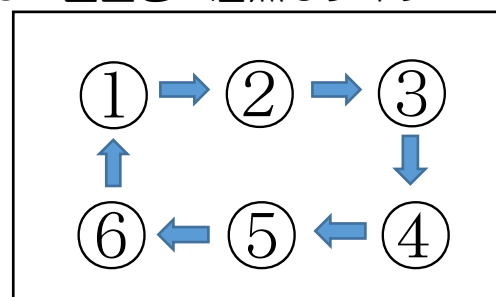
A：足付き大・底有りタイプ



B：足付き小・底有りタイプ



C：直置き・底無しタイプ



- 3 投入した生ごみに水を入れ、生ごみと土と水をシャベルでザクザク混ぜます。

土を生ごみによく絡めるように混ぜるのがコツです。水の量の目安は、泥だんごが作れる程度がベストです。

食用油、汁物、カレー、腐ったものでも、水切りせずに投入し土と混ぜてください。



- 4 表面に乾いた土をたっぷりかぶせフタをします。

2でよけておいた乾いた土をしっかりとかぶせます。土をしっかりとかぶせることで、臭いと虫の発生を抑制できます。

**生ごみが表面に出ていると臭いや虫が発生し、ごみも消えません。**



- 5 上記の1～4の作業を繰り返します。

順次、埋める場所を変えながら、3～5日ごとに行います。夏場は3～5日、冬場は10日前後で生ごみがなくなります。生ごみの大きさや量、キエーロの設置場所等により多少の差が生じます。

なお、冬場は気温が下がるため、微生物の活動が落ち、分解速度が落ちます。分解を促進するには、生ごみを細かく刻みシャベルでザクザク混ぜます。廃食油や米ぬかを入れるなどの方法も効果的です。

- 6 生ごみを分解した土は、養分を含んでくるので堆肥にも使えます。

## ◇消えやすいもの・消えにくいものリスト



よく消える	消えやすい	やや消えにくい	消えにくい
傷んだ野菜・くだもの 火や湯を通した野菜・くだもの 魚の内臓・煮汁 生肉・脂身 ラーメン・みそ汁・カレーの残り物 傷んだ弁当・残飯 期限切れの食品 廃食油 残った揚げ物 もみ殻・米ぬか	刻んだ野菜くず くだもの（果肉） 野菜・くだもの皮 火を通した魚・肉 パン・ごはん・麺類 お茶がら コーヒーかす エビの殻	レモン・グレープフルーツなどかんきつ類の皮 トウモロコシの芯 玉ねぎの皮 枝豆のサヤ スイカの皮 冬瓜の皮 キャベツなど野菜の芯 ごぼう・にんじんなどの根菜類 ブロccoliの太い茎 昆布 魚の大きな頭・小骨 たまごの殻 カニの殻	貝殻 牛・豚・鶏の骨 魚の大きな骨 タケノコの皮 トウモロコシの皮 栗の皮 かぼちゃの種 アボガドの種 ゴーヤの種 桃・柿の種 梅干しの種

※ 「よく消える」ものは土の中で分解しやすく、「消えにくい」に近づくほど分解しにくくなります。

※ キエーロは、自然の力を利用して、ご家庭から発生する生ごみの排出を抑制するために使うものです。悪天候や寒い日が続いたり、トラブルが発生したりした場合は、無理せず使用を控えてください。

※ 消えにくく水分の少ない生ごみは、可燃ごみとして出すのもキエーロを上手に使うコツと言えます。

## ◇困ったときの回答と対策

～こんなときは、どうするの?～

疑問・問題点	回答・対策
1 使っていくうちに土の量は増えないの?	生ごみは、土の中のバクテリアによってエネルギー物質や二酸化炭素などに分解されるので、土の量が急激に増えることはありません。
2 黒土の代わりに腐葉土や培養土は使えないの?	<b>腐葉土や培養土は</b> 、土の(中のバクテリアの)密度が低いので、キエーロによる生ごみ処理には向きません。逆に、 <b>虫が発生しやすい</b> ので、市販の黒土や畑の土を使用してください。
3 虫が発生した	<b>生ごみを不完全に土に埋めると虫が発生する</b> ことがあります。その場で生ごみと土を混ぜ(表面に近ければ少しだけ深く埋め直し)、上から乾いた土をかけてください。 ポイントは以下の3点です。 ①土と生ごみをよく混ぜる ②深さ 20cm あたりに埋め直す ③ <b>乾いた土をかぶせる</b>
4 掘り起こすと臭う	① <b>中で土が固まっている場合</b> は、空気不足が考えられますので、 <b>ザクザクと空気を入れるように混ぜて</b> ください。 ② <b>中が水分でべちょべちょになっている場合</b> は、水分の多すぎですので、乾いた土と混ぜて水気を緩和し、生ごみが分解されるまで投入を控えましょう。 ③投入する <b>生ごみが多すぎる</b> と分解が追い付かなくなり臭いや虫の原因となりますので、 <b>投入量や回数を減ら</b> しましょう。 ④魚の内臓などを分解途中で掘り起こすと臭う場合がありますので、分解されるまで掘り起こさないようにしましょう。
5 表面が臭う	① <b>土の表面が湿っている</b> と臭いが外に漏れやすくなりますので、 <b>乾いた土をかぶせる</b> か、表面が乾くまで投入を控えましょう。 ②生ごみを浅く埋めると臭いが外に漏れやすくなりますので、 <b>少し深く埋め直すか、上に乾いた土をかぶせ</b> ましょう。
6 生ごみが消えない	①設置場所には、日当たりがよく風通しの良い所を選びましょう。 <b>日当たりが良いほど分解能力が高まります</b> 。 ②使い始めて間もない場合は、バクテリアが少なく活性も低いので分解に時間がかかりますが、生ごみの投入を続けるうちに分解が進むようになります。 ②生ごみと土をよく混ぜ合わせることで分解が進みますので、生ごみを入れたら土と水を入れて <b>シャベルでザクザクしてから乾いた土をかぶせて</b> ください。 ③底の方で土といっしょに固くなっている場合は、空気不足ですので、空気を入れるようシャベルでザクザクしてください。 ④寒くなると分解が遅くなりますので、 <b>廃食油や米ぬかを一緒に混ぜて</b> ください。



平成29年4月発行

東松山市環境産業部廃棄物対策課